

『Mind Charging』

第 144 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 11 月 4 日

為末 大の名言



他人の浮き沈みに一喜一憂し、誰かをけなすことで憂さを晴らす。

でも朝起きてみれば自分の人生は何も変わっていない。

大小に関わらず、『私はこれまでの生涯の中でただの一度も他人を気にしたことはありません！』という人や、『他人のことをけなすなんて言語道断！そんなこと私は一度もしたことはありません！』という人は、もしかしたらいいのかもしれません。そう思うってしまうように、やはり他人のことは気になるものであり、自分よりも“勝って(優れて)いる”と思う人に対して嫌悪感を抱いてしまうことは少なくありません。そして、そのような感情を抱いて文句を言ったところで自分にとっては何のメリットもないことも、当然ながら理解していると思います。

では、なぜそのような感情を抱いてしまうのか。考えられる様々な理由の中には、きっと“不安”が挙げられるのではないのでしょうか。例えば部活動で練習試合を行う理由の一つとしては『自チームが今どのレベルにあるのか』を推し量るというものがあります。正智深谷のみなさんのほとんどは中学生時代に受験したと思いますが、北辰テストのような模擬試験を受けて自分の志望校に合格できる可能性と現状の実力を判断することと同じだと思います。

そこで、“目標に遠く及ばない”という現実を突きつけられた時の焦りや、そのショックから来るストレスは計り知れないものがあるでしょう。そんな時、順調そうな人を見ると『つい・・・』という心理はわかりますが、先に述べたようにその行為は何のメリットもありません。むしろ後でそんな自分に対して『自分が不安に勝てなかつただけなのに・・・』と自己嫌悪に陥るといえば『デメリット』まで発生する可能性が出てきてしまいます。わかってはいても“一瞬だけ逃げたい”という気持ちにはなかなか勝てません。しかし、そのために誰かを否定するのは許されないことです。今後も不安が消えることはないと思いますし、これは非常に勇気が要ることですが、未熟な自分と向き合うことで、『過去にはそうしてしまっていた時もありましたが、今はそういったことは一切ないです！』と言えるように成長していきたいものですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

2001 年世界陸上エドモントン大会・2005 年世界陸上ヘルシンキ大会の男子 400m ハードルにおいて、世界陸上選手権の 2 大会で銅メダルを獲得。又オリンピックには、2000 年シドニー・2004 年アテネ・2008 年北京と、3 大会連続で出場した。身長 170cm、体重 66kg。(Wikipedia 参照)